

「2024年中国・浙江大学スプリングスクール派遣報告書」

京都大学理学部1年 三輪 士温

① 学習成果

今回の派遣に参加する前とした後とで留学への意欲はやや増えたといえそうだ。一度国外の街並み、文化、大学の雰囲気を知ると視野がぐんと広がることを痛感させられた。いつかまたこのような機会があれば参加したい。国際理解への意欲という点に関しては、他国とうまく付き合う上で、人間同士の交流というのはやはり重要なものであるということを再認識し、学生も国際理解を推し進める一員になりえることを理解した。

② 海外での経験

現地に着いて印象的だったのは霧の多さである。入国日は一面の曇り空で物々しい雰囲気を感じたが、翌日に世界遺産西湖へ赴いたときは霧のおかげで景色がより一層幻想的に見えた。次に食べ物の安さ。杭州の中心部で食べると日本とさして変わらない価格感になってしまうが、郊外のレストランや食堂は15元(約300円)程度でお腹いっぱい食べられるということは非常に好印象だった。お金の払い方も日本とは異なり、ほぼ100%QRコード決済で現金は用いない。これには渡航前はうまく決済サービスが使えるかどうか不安で懐疑的だったが、外国人でも簡単に使うことができ、一度慣れてしまうと日本の現金がまだ多用されている現状に違和感を覚えるまでに至った。少し話を戻して今度は「食」について深掘りすると、想像していたほど各々の料理が辛くなくて驚いた。省によっても違うと思うが浙江省杭州の味付けは日本人にも馴染みやすいもので、初めての中国旅行でも何も心配なかった。辛さの代わりに目立っていたものはスパイスで、様々な料理に用いられていて新鮮だった。食事とともに安さで目立ったものは交通費である。地下鉄の初乗り運賃は2元(約40円)ほどで京都の5分の1程度。バスも一律2元で日本では考えられない価格設定になっている。長距離の鉄道路線も安く、杭州から上海まで高鉄(日本の新幹線に相当)で1時間、距離にして200km程度(これは概ね東京―静岡程度の距離に相当)で80元(約1600円)前後で、こちらも日本の5分の1程度の値段で乗れてしまう。中国はここ10年から20年、インフラ整備に力を入れているというのを聞いていたがここまで安く乗れるものだとは思わなかった。大学の設備も充実しており、特に紫金港キャンパスは想像を絶する程の広さで、このプログラムに参加するか浙江大学に留学しない限り訪れることができないので参加した甲斐があった。

③ プログラム内容

浙江大学の留学生向けの通期の中国語の授業に2週間だけ入れさせてもらい、あとは大学の方が杭州市内を案内してくれたり自由行動だったりした。私のクラスでは中国語での交流というよりもむしろ英語での交流がメインで、浙江大学の学生ともあまり交流する機会がなかったため、中国語の能力の伸びはあまり実感できなかったが色々な国の人と話せたことはよかった。

④ 進路への影響について

このプログラムを通じて海外へ留学する抵抗感は少なくなった気がする。中国へ留学することはないかもしれないが視野が開けたように思う。